



流域ツアー&ウォッチングで訪れた山梨県小菅村国重要文化財「長作観音堂」

## Contents

- ◆ 2008年度上下流交流事業・流域シンポジウム .....2
- ◆ 環境調査事業 .....4
  - ・「田んぼの生きもの調査」活動報告
- ◆ 冬水たんぼ .....5
- ◆ 馬入水辺の楽校へようこそ! .....6
- ◆ カワラノギクを守ろう.....7
  - ・相模原市立湘南小学校
- ◆ 流域ウォッチング19 桂川・相模川の主な支流.....8
- ◆ シリーズ 悪玉生物と言われても④.....10
  - ・ウシガエルの言い分
- ◆ エコへの一歩.....11
  - ・あふれるモノに囲まれて
- ◆ 流域ツアー&ウォッチング .....12
  - ・山梨県小菅村
- ◆ 水環境保全活動・自然環境保全活動等功労者表彰 .....14
- ◆ 地域協議会だより .....15
  - ・さがみはら地域協議会から

## 2008年度上下流交流事業・流域シンポジウム（富士河口湖町2008.11.8）

2008年度の上下流交流事業と流域シンポジウムは、富士河口湖町において11月8日に開催しました。桂川・相模川を遠く遡ればそれは富士山に至ります。富士山とその周辺環境である森林等が育んだ水が桂川・相模川に注がれています。現在、富士山は、世界文化遺産登録に向けた動きが活発であり、富士山に加え周辺環境の保全をいかに図るべきかが注目されています。このような折に、流域協議会が富士北麓の富士河口湖町において植樹を行い、富士山のことをよく知ることは、意義のあることと考え、これらの事業を実施しました。



### ■上下流交流事業（八木崎公園10時30分～）

流域の水を育てているのは、富士山周辺の森林であり、山梨・神奈川の両県から市民等が富士北麓の地を訪れ、流域最上流部の森づくりに関する活動を行うことは、富士山周辺の環境保全や景観保持にとって有意義なことです。そこで、交流事業は河口湖畔において植樹活動を実施することとしました。

河口湖畔にある八木崎公園は、6月から7月にはラベンダーが咲き誇り富士山や河口湖と相まって見事な景観を作り上げています。湖畔に面した公園の北部には、この景観に春の彩りを加えようとサクラが植えられていましたが、当地の厳寒な気候や土の固さといった事情があり、サクラはうまく育つことができませんでした。

そこで、植樹活動は、この河口湖をすぐ先に臨む八木崎公園北部にサクラの植樹を行うことにしました。湖畔へのサクラの植樹は地域住民の要望にも沿ったものであり、流域協議会の活動が地域住民の皆さんのお役に立てるといふ面もあります。



小雨の中の植樹作業

当日は小雨であるにもかかわらず（植樹には最適ですが…）、118人の参加があり、河西代表幹事と地元小立地区自治会の戸川さんのあいさつののち、2.5mのサクラを20本植樹しました。今回の植樹は、地元業者さん選定の立派な苗と念入りな地ごしらえに加え、小雨に負けない参加者の皆さんの熱意もあって、きれいに植樹されたサクラが湖畔に並びました。上下流から参加された皆さんは、ご自分が植樹したサクラの成長を見るため、再び河口湖を訪れる楽しみができたのではないのでしょうか。



2月下旬の様子。少し芽吹いてきました。

### ■流域シンポジウム（勝山ふれあいセンター13時30分～）

富士山が桂川・相模川の源であることは、意外と知られていないことであり、富士山や周辺環境の環境保全の必要に気づくことは重要と考え、テーマを「桂川・相模川の源 変わりゆく富士山」として、シンポジウムを開催しました。

パネル展示見学、オマタタツロウさんのコンサート、倉橋代表幹事、渡邊富士河口湖町長のあいさつののち、富士山に関連する活動、研究をされている3人の方の講演が行われました。



パネル展示

#### □講演「富士山の世界文化遺産登録について」

山梨県企画部世界遺産推進課長 吉澤公博氏

（世界遺産登録）美しい富士山を大切なものとして後世に残したいというのが世界遺産登録への取り組みです。世界遺産のうち富士山は文化遺産登録を目指し、文化的景観、豊かな自然の中に人間の生活や文化が創造され大きな景観を為しているということ（打ち）出しています。

（手続）富士山は平成19年に暫定リストに登載され、その後本推薦に向けた取り組みをしています。本推薦提出後にユネスコの専門機関の現地調査、世界遺産委員会の審議を経て登録となります。なるべく早く推薦書を提出するというのが目下の課題です。

（価値）富士山のどこに価値を見ているかというと、富士山の信仰、富士山と芸術、富士山と自然の3つです。

（信仰）9世紀頃、富士山の噴火を鎮めるため浅間神社が各地で建てられました。富士山の麓にも多くの浅間神社があり信仰の場として登山が行われました。現在では静岡も入れると約40万人の登山者があります。

（芸術）北斎、広重の浮世絵のほか、文学、絵画、工芸などの芸術の題材になっています。古くは万葉集にも詠われています。

（自然）約40万年前、約10万年前に火山がで、約1万年前



に現在の形(3層構造)となりました。富士山からの水は忍野八海のような恵みをもたらし、ミネラルウォーターのような産業にも発展しています。

**(構成資産候補)** 富士山の範囲ということですが、中央の特別名勝エリアや登山道、浅間神社、湧水、湖沼、風穴などを含めて構成資産候補とらえています。

**(環境保全)** 静岡県と山梨県は10年前に自然、景観、歴史を継承するためのスローガン「富士山憲章」を制定しました。トイレの問題もありましたが、平成18年度までに整備されました。清掃活動、不法投棄対策も官民一体で取り組んでいます。

**(最後に)** 富士山は自然があってこそ人々の暮らしがそこに息づいています。富士山が後世まで保たれるよう活動をしていきますので、ご支援をお願いします。

## □富士山の森づくりについて

財団法人オイスカ山梨県支部事務局長 田中美津江氏

**(オイスカとは)** 国際NGOとして47年ほど東南アジアを中心として活動を続けています。日本でも特に森づくりを中心とした活動をしています。

**(富士山の森づくり)** まず、富士山周辺の森林再生について、天然更新より早い再生ができると考えました。また、富士山の森づくりは、森林の機能の啓発、雇用促進、地域活性化などにもつながると考え、取り組むことにしました。

**(手法)** 富士山の森林のうち46%は人工林ですが、2002年に病虫害による被害がありました。周辺地域の防止対策は列状間伐により天然更新を促すものでしたが、オイスカは専門研究者に意見を伺い、天然更新より早い(人為的な)森づくりを考えました。天然林調査により元気に育っている5種を選定し、天然林の立木密度も調べ1haに1,000本、自然に近い形として(列状でなく)ランダムに植えることにしました(約100ha)。

**(管理の枠組み)** 森林は民有地の場合、所有者による管理に限界があり、新たな管理の枠組み、企業や私たちのような民間(団体)が関わる必要があるという状況です。

**(オイスカの役割)** 企業は森林整備への参画に注目しています。オイスカは森づくりのプロではありませんが、情報の収集、提供ができます。地域で必要とされている支援や色々な手続き、どこに資金があるか等の情報を収集し、関係機関と連絡調整をします。事例を通し、森づくりは様々なセクターの協働と(この間をつなぐ)コーディネーターが必要との結論になりました。

**(活動状況)** 植林地は富士山の2~3回目、作業もハードですが、今年は8企業1,000人を超えるボランティアの参加がありました。家族連れ、リピーターも沢山います。

**(協議会)** どんな森づくりが必要か、また、森づくりの成果を広く知ってもらうため、富士山の森づくり推進協議会を立ち上げました。これからも勉強会などを開きながら活動を続けていきます。

## □富士山・富士五湖周辺の水環境研究の新展開

山梨県環境科学研究所 興水達司氏

**(はじめに)** この10年くらいの水の研究について、富士山の化学的性質を地質学的な視点から見ると、色々な姿が見えてきました。水は上空から降ってきて地層と接します。地層の性質を化学的にも物理的にも引き継いだものが水に現れます。この性質の特徴をとらえ、何が見えたのかをご紹介します。

**(研究)** 原点の研究はバナジウムでした。高速道路沿いの水を

東名、中央道というように広範囲に取って比較すると、白っぽい岩石、流紋岩、花崗岩が多い愛知県付近ではバナジウムは少ないのですが、黒っぽい岩石、玄武岩の多い富士山周辺ではこれが高くなります。分布する岩石の種類に応じて地域の水の性質が違ってくるということがわかってきました。

しかも、それはヨモギやハヤなどの植物や動物にも地域差となって現れています。植物や動物にも水を介して伝わっているということです。

上から降った水が岩石の地層の性質を絞り出して出てきます。富士山の岩石にはリンが高く、ウランは少ないのですが、昇仙峡などの他地域と比較すると水のデータにも地域差として現れています。岩石の種類に応じて各種の元素の水への入り方が違うということです。

**(富士五湖)** 富士五湖は地下水が富士五湖の水になると信じている人がいますが、富士五湖の水の性質は周辺の地下水とは異なるものであり、富士五湖の水は地下水もあるでしょうが、多くは表層をさらって流れ込んだようなもので形成されているという理解ができます。(この理解では)例えば、10年ほど前の台風の時に急に水面が上がったということも説明ができることになるかと思えます。水の循環システムについて、ある程度従来と違った様子がわかりつつあるということをご紹介します。

**(その他)** 湖にボーリングコア(地層のサンプル)を掘って色々なものを分析すると、当時の車の排気ガス、大気中の汚れなどを調べることができます。河口湖は大気中の汚れが最近比較的良くなってきていることもボーリングコアのデータとして見えてきています。

## □意見交換会

講演ののち、当協議会で事務局のご経験のある山本幹雄氏をコーディネーターに講師の3氏とともに意見交換会が行われ、活発な質疑応答がありました。



意見交換会。舞台上には今年も見事な花が飾られました。

## 桂川・相模川流域シンポジウムに参加して

岸川敏朗(神奈川県職員)

折からの初冬の冷たい雨の中、平塚からのバスに乗りシンポジウムに参加しました。開会前に行われた河口湖畔の植樹では、雨を物ともせずに参加した会員の姿に少なからず感動を覚えました。

地元環境団体の活動状況をパネルで見た後に、シンポジウムが始まり、ミニコンサート、富士山の世界遺産登録、森づくり、水の問題に関する講演、意見交換会と続き、コーディネーターの山本幹雄さんは会場と演者との間でうまく議論を引き出していました。

流域のことを考えるとき、机上で議論するよりも現地に行って人の話を聞くことが大事であることを改めて感じ、演者の皆さんに感謝したいと思っています。

シンポジウムに久しぶりに参加して、桂川・相模川の流域の大きさを実感した一日となりましたが、終了後は、旧知の山本さんと八王子で旧交を温めたことは言うまでもありません。

# 2008年度後半 環境調査事業「田んぼの生きもの調査」活動報告

大木悦子(田んぼの生きもの調査実行委員会)

## ●2008年度後半調査 [9月8日、10月8日]

実習地 海老名市上今泉・愛川町尾山耕地



○写真:愛川町・尾山耕地で見られた生きものたち  
9月8日

左:キイトンボのオス(県絶滅危惧ⅠB類)

10月8日

右・上:ギンヤンマの仲間・若齢ヤゴ \*終齢と違う姿

右・中:イトアメンボ(県絶滅危惧ⅠA類・国絶滅危惧Ⅱ類)

右・下:アカハライモリ(県絶滅危惧Ⅰ類・国準絶滅危惧)



○写真:10月8日

海老名市・泉橋酒造の酒米水田、生きもの調査風景  
稲にとまっていた、全身真っ赤なナツアカネのオス

(県要注意種)

小雨まじりの曇りのため、海老名市・愛川町ともに、稲穂の上を飛翔しながら連結産卵(雄と雌がつながり、卵を振り落とす)するナツアカネを見ることができませんでした。

## ●年間概要

\*基礎的資料ですが、様々な理由で、精度の限界があります。

○調査実施期間 6月下旬～10月上旬

○海老名市と愛川町で観られた生きもの 合計100種以上

○調査地(水田・畦・水路)で見られた主な生物

クモ 9・10月	アシナガグモ、ヤサガタアシナガグモ、ドヨウオニグモなど9種
主に海老名市上今泉で確認した生物	水田:ホウネンエビ 水路:タイワンシジミ、コムズムシ、カマツカ、ヌマチチブ、ウシガエルのオタマジャクシ 他
主に愛川町尾山耕地で確認した生物	水田:ハネナガイナゴ、イトアメンボ、モートンイトンボ、コオイムシ、ヘイケボタル、トウキョウダルマガエル、アカハライモリ 水路:コモチカフツボ、カゲロウやカワゲラの仲間、流水系ヤゴ(ミルンヤンマ・ミヤマアカネ他)、サワガニ、ホトケドジョウ、ツチガエル 他
海老名市・愛川町で、共通して確認した主な生物	水田:ヒメモノアラガイ、ユスリカ、ヤゴ、タマガムシ、コカゲロウ、アメンボ、トビムシ、ミジンコ、オタマジャクシの仲間 水路:ヌカエビ、ドジョウ、ウグイ 他

○生息環境の考察(例)

・海老名排水路

水田と落差が少なく、ドジョウ等の往来が可能な構造となっています。

・愛川町尾山耕地

水田や休耕地、土畦、川、山、沢など多様な環境に恵まれた地域であるといえます。

## ●田んぼの生きもの調査実行委員会

今年度の調査結果のみでは、生息状況の差異が何によるものか(農法の違い等)明確であるとはいえないため、どのような調査をすればよいか検討しました。

○来年度調査方法

調査対象生物の下敷きを作成し、手引きとします

・畦から水田中の生きものを網ですくい、調査

・水面や畦、稲、草などにいる生きものを目視

○調査対象と調査日

・ヤゴ、カエル、オタマジャクシ、イナゴなど、初心者や子供達にも現地でもわかる範囲の生きもの

・調査日の設定 様々な生きものが見られる時期

○調査場所と参加者募集について

・山梨県(場所未定)、神奈川県(相模原市縄文の谷戸・海老名市上今泉:泉橋酒造の酒米水田・愛川町尾山耕地・平塚市などを予定)

・各地域の実行委員を中心に、参加者を募ります。



☆ 5月～7月は、生きものたちのにぎわう頃。

田んぼの風に吹かれて、歩くだけでも楽しいです。

子供のころにかえって、田んぼをそっとのぞいてみると・今までと違った生きもの達の風景が見えてきます。

たとえ、その種名がわからなくても・おたまじゃくし!!と思った瞬間から、田んぼの生きもの調査が始まります。

ぜひ、足を運んでみてください。

生きものを育み、きれいな水を川へ戻す

# 冬水たんぼ

倉橋満知子

## 冬水たんぼとは

現在、多くの田んぼは稲刈りが終わると田を乾かす乾田式です。畦の水路も水が流れないので水生生物の生息環境が阻まれてしまいます。冬水たんぼは、稲刈り後の冬の間も水を張っておきます。そして田起しや代掻きもしません。冬から水を入れることで雑草の芽が押さえられ、田の草取りが楽になり、除草剤も要らなくなります。また微生物や糸ミズが増え、土壌が豊かになり、化学肥料も要らなくなります。そのため、生き物も豊かになり、きれいな水を川に返すことができます。田んぼは長い歴史のなかでは多種多様な生き物を育む水辺環境でしたが、現在では多くの生き物が希少種となり絶滅に瀕しています。

私は田んぼを始めて11年になりますが、4年前から冬水田んぼに取り組み始めました。それまでは一般的な方法で春に水を入れ、田起こし、代掻き、田植え、水を落とし、稲刈り、その後春まで乾かすというやりかたです。しかし、素人の悲しさか、また、谷戸という条件の悪さか、思うように収穫は出来ず、毎年稲の倒伏に悩まされ、湿田のため、水はけが悪く、腰近くまでぬかり、作業効率が大変悪い状況でした。おまけに無農薬、有機栽培ですので、田の草取りにも悩まされる重労働で、これでは昔の米作りに魅力を感じないことが納得できると思ったものです。

そんな中、平成16年の冷夏の時に冬水田んぼに出会いました。その年は私の田んぼも冷夏の影響で、ひどい不作でした。近くで冬水田んぼを実験していたのを見ていたので、夏場に見に行ったところ、周りの稲はほとんど育っていないのに、その冬水田んぼは青々とたくましく育っていたのでした。驚きと感動を覚えました。それから次の年から私の田んぼでも取り組み始めました。その結果、冬水たんぼは雑草がほとんど出ず、返って絶滅危惧種のイチョウウキゴケが出てきたり、ヤマアカガエルが産卵したりと、生き物も豊かになることが実証されました。2年、3年と続けるほど、収穫量も安定し、何より除草が楽で、機械がいらない、無農薬、肥料もいらない、安全でおいしい、きれいな水を川に返す、こんないいことづくしです。

この農法は都市部の農地には最適と確信するとともに、桂川・相模川の流域で取り組めば、水質が良くなり生き物が豊かになることはまちがいありません。うれしいことに昨年から海老名の泉橋酒造さんが酒米の田んぼで取り組み始めました。結果、収穫量は以前と変わらず、この冬の新酒には冬水田んぼの酒米が入っているそうです。出来上がったらぜひ、味わって見たいものです。





# 馬入水辺の楽校へ ようこそ!



## 1. 春近し

浜口 哲一(馬入水辺の楽校の会)

### 馬入水辺の楽校とは

国道一号線より1キロほど上流の右岸に「馬入水辺の楽校」と呼ばれているエリアがあります。水辺の楽校は、国土交通省が進めているプロジェクトで、環境学習のために河川敷を利用する試みです。地元自治体の支援や運営母体になる市民団体があることを条件に、全国で約260箇所が登録されており、それぞれ活発な活動を展開しています。

馬入では、平塚市水政課(現みどり公園水辺課)が中心となって準備が進められ、2001年4月に開校を迎えました。現在は、相模川の保全に関わる市民団体や地元自治会などのメンバーが作る「馬入水辺の楽校の会」が、国や市と協議しながら運営を進めています。タイトルに使った風車は、水をくみ上げて小川と池を作るために使われているもので、馬入水辺の楽校のシンボルになっています。

### 春を待つオニグルミ

さて、かたい話はともかくとして、ぜひ一度楽校に足を運んでください。そこには広々とした原っぱ、ワンドや池、エノキの林、ヨシやオギの草原などがあり、多くの生きものとふれあうことができます。この連載では、そのいくつかを紹介していきたいと思います。

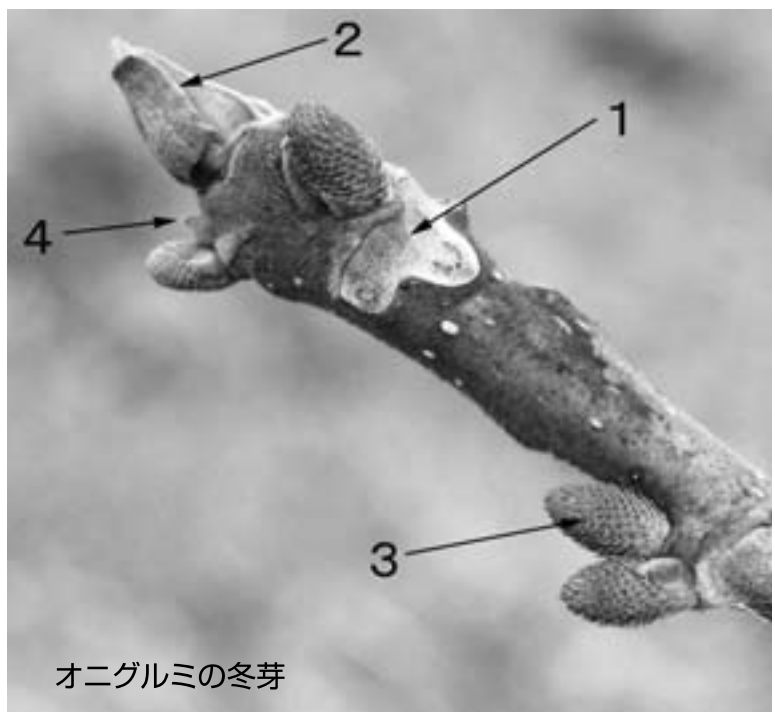
水辺の楽校でよく見られる樹木にオニグルミがあります。今の季節、枝先を見ると、冬芽がふくらんできたようすを見ることができます。オニグルミの冬芽には、いろいろな見所がありますので、写真に番号を入れておきました。1は、葉痕(ようこん)といって去年葉がついていた痕です。オニグルミの葉は大きな複葉なので、太い葉柄を持っており、その痕もたいへん目立つものです。見方によっては、ヒツジの顔とかサル顔に似ているというのですが、皆さんにはどう見えるでしょうか。

2は頂芽(ちょうが)といって、これから伸び出す枝と葉がしまわれています。3は表面が鱗状になっていますが、これは雄花のつぼみで、4月に入ると、長く伸びて花粉を飛ばします。ちなみに雌花の方は頂芽に隠れていて、葉が開くのと同時に姿を現します。4は、この写真ではちょっと分かりにくいのですが、腋芽(えきが)といって、枝分かれていく部分です。

このように冬の姿を観察しておくと、春が来て芽が開いてきた時に、どの部分がどうなっていくのか変化を追跡する楽しみが生まれます。春は、毎日のように自然のようすが変わる季節です。同じ場所に通って、その変化を味わいましょう。

水辺の楽校では、春の花も多く見られます。オドリコソウやタチヤナギの花を探しに、ぜひお訪ねください。

(馬入水辺の楽校へは、平塚駅北口から神奈中バス茅ヶ崎行き(4番線)「馬入橋」下車徒歩15分 または東八幡工業団地行き(9番線)「馬入ふれあい公園入り口」下車徒歩10分。シーズンによっては馬入ふれあい公園行き臨時シャトルバスあり。)



オニグルミの冬芽

# カワラノギクを守ろう

相模原市立 湘南小学校



湘南小学校では、2001年から3・4年生が総合的な学習の時間で「カワラノギク」の保護活動に取り組んでいます。「カワラノギクを守る会」(河又猛会長)の方とともに「ふるさとの花・カワラノギク」を大切に育てています。

## 1年間の主な活動

- 4月 種まき、苗植え、学習会、観察、草取り
- 5月 観察、草取り
- 6月 観察、草取り、案内板の設置
- 7月 観察、草取り
- 9月 観察、草取り、通路整備
- 10月 全校でお弁当を食べながらお花見会、スケッチ
- 11月 観察
- 12月 種とり、乾燥、観察
- 1月 種とり、乾燥、花がら引き、観察
- 2月 活動のまとめ
- 3月 発表会



2008年10月29日「お花見会」

## 感想

- ・カワラノギクは大切な植物だと思いました。このままだと消えてしまう危険があるから、ぼくたちは大事に育てたいと思いました。(3年)
- ・はじめは観察に行くのが大変でした。でも、だんだん慣れてきて、観察に行くのが楽しみになりました。暑さに負けず、草取りをがんばりました。花が、たくさん咲いてよかったです。種もたくさん取れました。来年も花がいっぱい咲くように、観察や草取りをがんばりたいです。(3年)
- ・ぼくは、カワラノギクを育てる活動は今年で最後だったけど、去年台風の被害でできなかったお花見会が今年はできてよかったです。来年は、もっとカワラノギクがいっぱい咲いてほしいです。(4年)
- ・2年間やって大変だったことは、暑いときの草むしりです。暑い夏の時は虫がいるし雑草も元気よく生えていたので、抜くのが大変でした。でも、3・4年生で助け合って2年間活動してきてすごく楽しかったです。これからも、「カワラノギクのふるさと」を守って行ってほしいです。(4年)

この学習は、カワラノギクの保護活動を通して、「ふるさとの自然を大切に育てる」ことをねらいとして取り組んできました。子どもたちは、絶滅危惧種のカワラノギクを自分たちで守っていきたいという思いや、カワラノギクの花をたくさん咲かせたいという願いを持って活動していました。また、観察や世話を継続して行う中で、カワラノギクに愛着を持ち、積極的に活動に取り組むことができました。カワラノギクの保護活動は、その思いが、また次年度へ受け継がれていくという、湘南小の伝統的な活動の一つになっています。



# 桂川・相模川の主な支流（1次支川）

桂川・相模川の支流（1次支川）、  
どれだけわかりますか。  
この読み方、知ってましたか。





支流名	流域市町村	支流名	流域市町村
新名庄(シンメイショウ)川	忍野村	秋山川	上野原市・相模原市
宮川	富士吉田市	沢井川	相模原市
小佐野川	富士吉田市	篠原(シノバラ)川	相模原市
柄杓流(シヤクナガレ)川	西桂町・都留市	白沢川	相模原市
鹿留(シシドメ)川	都留市	道志川	道志村・相模原市
大幡(オオハタ)川	都留市	串川	相模原市
菅野川	都留市	八瀬(ヤセ)川	相模原市
朝日川	都留市	鳩川	相模原市・座間市・海老名市
笹子川	大月市	中津川	清川村・座間市・厚木市
浅利川	大月市	小鮎川	清川村・厚木市
葛野(カズノ)川	大月市	永池川	海老名市
小沢川	大月市	玉川	伊勢原市・厚木市
鶴川	上野原市・小菅村	目久尻川	座間市・綾瀬市・海老名市・寒川町
境川	上野原市・相模原市	小出川	藤沢市・寒川町・茅ヶ崎市



## ウシガエルの言い分

代弁人 天内康夫／環境カウンセラー

私たちは今から1世紀近い前、1918年にアメリカから東京に持ち込まれました。食用としてです。ですから「ショクヨウガエル」の別名ももらっています。大きさの点ではヒキガエル以上で、最大15～16センチにもなります。ウシガエルという名前は、私たちが繁殖期にメスを呼ぶ「ブォー、ブォー」という低音のラブコールをウシの声に似ているとしたもののようで、英語名もBull-frogとなっています。

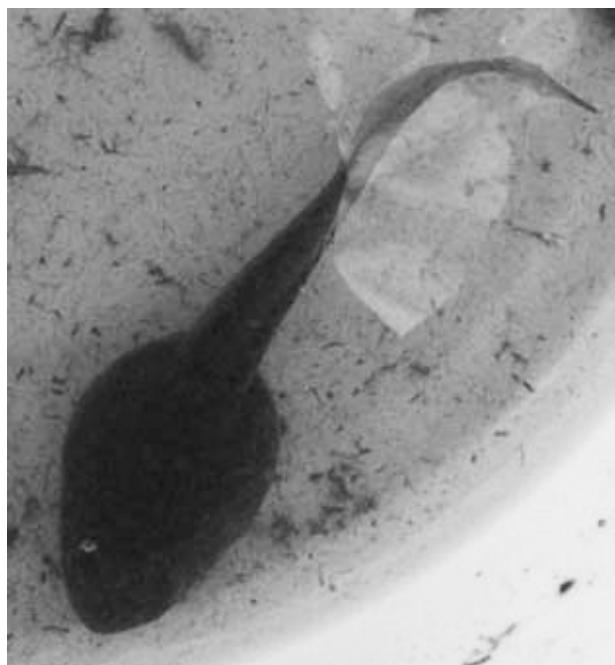
戦後の食糧難の時期に、すでに東京付近の池や沼にはたくさん生息しており、グルメ通にはひそかな人気だったようです。東京のとある大銀行の社員食堂で、やわらかい肉の入ったカレーが昼食に出て、おいしい、おいしいと食べた後で、実は食用蛙の肉だったと聞いて、行員たちはいっせいにトイレに走った…とも聞きました。せっかく食用に輸入されたのに、食文化として根付かなかったのは、私の味のせいではなくて、日本人の偏見のせいでしょう。

私はヒキガエルのように毒をもっていないから、つかまって食べられないように、逃げ足だけは自慢です。泳ぎの名手であり、しかもひと飛び3メートル!の跳躍力はバツグンです。

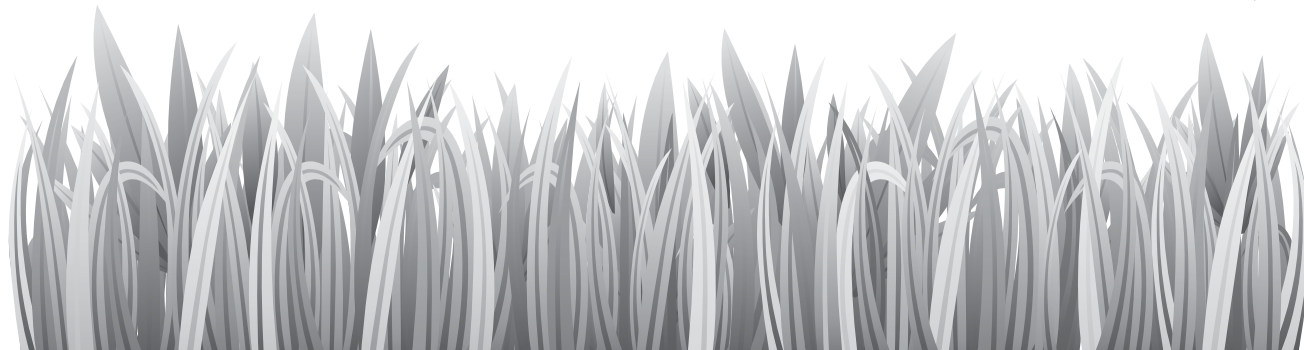
私たちウシガエルの卵塊は、アカガエルやダルマガエルのようにひと塊にならず、水面に浮いて薄く広がります。卵の数は5～6千個から、ときに4万個にも達しますから、すくい取って捨てるようにもたいへんです。この水面産卵法が、深い池で繁殖する私たちの生き

方なのです。オタマジャクシは早くて翌年まで、どうかすればまるまる2年も3年も水中で暮らしますから、巨大なオタマジャクシになります。池の中でジャンボオタマを見かけたら、それは私たちの子どもです。

私たちとはかなり遠縁ですが、これまでは日本在来のガマガエル(ヒキガエル)が実験動物の重要な一端を担ってきました。住宅地や道路の開発、畑地での農薬使用などで彼らの棲みかが奪われ、ヒキガエルたちは姿を消しつつあります。大形のカエルの不足で、いま研究機関は困っているようです。これからは私たちウシガエルが、医学や生物学の実験動物としてお役にたてるかもしれません。



ウシガエルのオタマジャクシ





# あめれるモノに囲まれて モノとの出会いも一期一会

あらいそECOクラブ 梶文(かじあや)

TVのワイドショーで映し出されるごみ屋敷、臭ってきそうなホンモノは見たことないものの、すごい状態なのは、よくわかる。マイクを持ったレポーターは、「周りの迷惑は考えないんですか?撤去期限は過ぎてますよ。」なんて、迫ってくる。

でも、このゴミらしきモノたちも、誰かによって何かのためにつくられた過去がある。

それを慈しんでくれるのは、今ではごみ屋敷の主だけ。

簡単に安く何か欲しい消費者のニーズを受けて、いろいろなマーケットがある。

モノの価格、すなわち自分でつくる代わりに技術、時間、手間に対して払う代価であるが、材料費を下回るであろう極端な価格を見つけるときもある。何かがどこかで歪んでいるような気がして、私は、そういうものには手を伸ばせない。

モノが私たちの手元に出回るまでを想像することがとても大切だ。

あらいそecoクラブは、前年度もあらいそ女性学級に参加した。

そこではモノ作りの大切さを実感するために、地元の味酒饅頭を作り、なたや小刀で竹箸を作った。モノになるまでの工程、手間を体感したから、モノの価値に見合う扱いができるようになった。

簡単には捨てない。安いものにすぐ買い替えられる社会だからって。

でも、人の捨てたものは捨てるなあと家の中を見渡してみる。ほとんどが中古品・・・父の使っていた文机の上に載っているのが義父からお下がりのTV、相模原市リサイクルセンターでゲットしたオーディオラック、もう使わないからと引き取った大人のベッド・子供の2段ベッド・ソファ、兄が捨てるといった棚、ネットの向こうで誰かが使った古いプレステ、そういえば家も中古だったな。子供たちもいろんなものを嬉々として捨ててきては、宝物にしている。

もしかして!そのうち私も、無残に捨てられて土に還ることのないモノたちを家の中いっぱい集め始めるかも(>\_<)

・・・そうならないようにしましょう!





# 桂川・相模川流域協議会「流域ツアー&ウォッチング」

## ～T&W28 源流の里・小菅村を訪問・交流～

幹事 牧島信一

今回は、来年度から協議会に入会予定で、桂川・相模川のひとつの源流域でもある小菅村を訪問地としました。村のキーパーソンから、元気な村の秘訣を学ぶべく視察し、説明を受け、意見交換を行いました。  
(2008年12月4日(木))

### ■実施内容

#### (1) 長作観音堂を見学

村内のうち桂川・相模川の源流にあたる地域である長作地区にある国の重要文化財。鎌倉時代の建造物と推定され、如意輪観音像は本尊である聖徳太子作の像として、安産と養蚕祈願にご利益があると信じられている。

#### (2) 林業廃棄物処理施設を見学

森林資源を再利用し林業経営と農業の振興を図るため、林業廃棄物処理施設を建設し、村内から出る生ゴミと間伐材等からたい肥を製造している(平成14年12月～)。たい肥は、間伐材から作られる「おが粉」と、集められた生ゴミに米ぬかと発酵菌を加え、混合たい肥化装置により約80日間熟成して製造している。

#### (3) 多摩川源流大学を見学

源流域は水資源や豊かな森林、よき伝統文化を持っているが、高齢化等によりこれらを保持することが困難。そこで、多摩川源流大学を設立し、主として大学の学生に、下刈、間伐、土づくり、畑の養生、水田の再生、炭焼き、鷹細工等の体験学習・実習をもらう場を提供し、源流域の自然や文化を学ぶことで、人材育成と源流域の地域再生を図ることとした。



多摩川源流大学職員からの説明

東京農業大学はこの源流大学への参加により単位が取れる。源流大学内の部屋には村内の材を使った床、腰板がはられているが、同大の学生の作業によるもの。木はにおいもいし暖かみがあると参加者は感心していた。

#### (4) 小菅の湯を見学

同村は観光を主な産業として村づくりを進めているが、その拠点施設が小菅の湯(平成6年開業)。昼食時には、地元の食材を生かした料理(イワナ、山菜など)を食し、一時小菅の湯と地産地消で小菅村を支援することも併せて買い物を楽しんだ。その後講演、意見交換会を行った。

#### ① 小菅の湯・黒川総支配人の話

本村では、役場職員もサービス業を学ばなければならないという方針で一度は小菅の湯に配属される。一度務めたことがあったが、再度温泉の仕事をする事になり8年が経過した。温泉、物産館は財団法人で運営し、収益を漬物工場、村内の子どもの修学旅行経費(オーストラリア)に充てたりしている。温泉は、多摩川流域(東京都・山梨県)の8市町村でつくる大多摩観光連盟内に7つもあり、

加えてガソリン価格上昇(小菅の湯はマイカー来場がほとんど)、後期高齢者医療制度の導入(財布のひもが固くなる)など、状況は厳しい。

私が温泉の運営で考えたのは、目玉としての「料理」。他の温泉はみな国道に面しているが、当地は目的がないと来てくれない。また、(地域の文化の継承として)地元住民や東京農大の学生の協力もあり、今年は「室(むろ)」も作った。斜面に穴を掘っていき、野菜等の自然貯蔵庫とするもの、年間を通して14～15℃に保たれ、2、3ヶ月は保存できる。燃料の高騰は温泉運営にも大きな影響がある。重油のボイラーを使っているが、年間20万リットルを要する。昨年は1,700万円かかったが今年は既に2,490万円。そこで、蓄熱式のヒートポンプ(アイスバンク)を導入し、CO2を削減することとした。この設備は購入すると高いが東京電力100%出資会社の東京都市サービス(株)からリースで導入することが出来た。メリットは初期投資がなく、メンテナンスも任せられること。従来、ボイラー等の保守点検に年180万円かかっていたが不要に。CO2も削減し源流の地らしく環境に配慮した運営ができるし、経費的にも有益なものとなった。また、CO2削減を国内クレジット制度(排出量取引制度)にのせて、東京電力に買い取ってもらう申請も行った。

ミネラルウォーター「多摩源流水」は、製造を始めた頃、スーパーを飛び回ったが、大メーカーのミネラルウォーターにはかなわない。このとき中村所長(後出)からの助言があった「110円ではなく120円なら売れる」「その10円を源流を守る基金(森林整備等)に充ててはどうか」。付加価値をつけるということ。その後東京農大の生協、ホンダ(株)の売店など今年は23社と契約することができ黒字化する見込み。温泉だけでなく、このような面からも村を盛り上げていく。

#### ② 小菅村・佐藤源流振興課長

小菅村は明治22年に誕生した。明治24年の人口は989人、昭和30年には2,244人にまでなったが、平成20年6月には903人、今月(11月1日現在)では894人と900人を割るところまで来ている。高齢化比率は38%であり、少子高齢化の傾向が強い。小中学校はそれぞれ1つずつあるが合わせて69名。内訳は小学校34人、中学校35人であり、これを見ても人口減少がわかる。

第1次総合計画(S56～)の頃は公共施設、公共事業をよく実施した時代。小中学校や下水道事業など。下水道は長作地区以外の7地区(多摩川流域)について導入し、H4に供用開始した。多摩川水道局の厚い支援もあり(当時の局長が同村出身)、丹波山村とともに事業を実施した。残る長作地区には農業集落排水処理施設を入れ、H6には村内ほぼ100%の処理率を達成した。多摩源流まつりを開催しはじめたのもこの頃(S62)。上下流は川で1本につながっている、この深い絆で村づくり、交流を進めていこうという取り組み。

第2次総合計画(H3～)の頃から多摩源流クリーン作戦をスタート、現在も村民総出で取り組んでいる。多摩源流水の販売をはじめたのもこの頃。村のイメージづくりでよいと思い始めたのだが、経費面も心配なところ。最近では売り上げも伸びてきている。村営住宅の建設も始めた(23戸)。補助等もあり1万8千円位で住むことが出来、こういうところで子育てをしたいという人もいたから人気があり、抽選をしていたほど。また、当時の村長が「村には温泉がなくてはならない」との一念で、温泉開業を決意したのもこの頃。村内の一番広いところに小菅の湯をつくり開業した(H6)。

第3次総合計画(H12～)から「源流の村づくり計画」とするなど、「源流」という言葉を使うようになった。源流研究所をつくったのもこの頃(H13)。朝日新聞に源流の絵図を作った人がいるという記事が掲載された。村長がすぐに会って意気投合した。これが中村文明所長。H12年9月に研究所設立準備室をつくり室長に中村さんがついて、そのまま所長になった。源流大学はH19から。東京農大ではここに来ると単位が取得できる。耕作等を実際してもらい、中には35年ぶりに水田になったというところもある。今取り組んでいるのは内閣府の地方の元気再生事業。全国1,186件の応募から120の事業が選定された。何かを作れるという事業ではないが、村の間伐材を学校の保健室の腰板等に利用する「木づかい保健室プロジェクト」(流域の小中学校等にアプローチしている)や源流水に付加価値をつけて販売をしていく事業をしている。

源流は、環境保全の最前線にいるという意識で取り組みを進めているので、流域協議会の皆様には、今後ともよろしく願います。

### ③多摩川源流研究所・中村所長

宮崎の出身である。魚釣り、川遊びが大好きだった。奥さんが塩山市に住んでいて、ここが多摩川の源流であったため行くようになった。笠取山の水干沢で「最初の一滴」を見て飲んで驚きだった。

多摩川源流サミットで写真展をしてくれと言われ、竜喉谷などに入った。谷のいわれを一之瀬高橋の老人が語ってくれた。金の精錬をするから精錬の滝、魚がそれ以上はいないからウオドメの滝など…。5年で420回歩き源流絵図をつくった。朝日新聞にこれが掲載されて県の河川課から世の中に出してくれと言われ400部を印刷し、県内の小中学校等に配布した。小菅の村長にも小菅版を作ってくれと言われ2000年3月から小菅版を作り出し、つきあいの中で6月には源流研究所をつくることになっていた。



小菅の湯にて昼食と買物

川の源に光を当てなくてはいかんと思っている。人が中下流に流れていく、金も、文化も。でも、大都會があるのは大自然があればこそ。都会と平等に源にも光が当たるようにしないとという気持ちをもって頑張ってきて、今、光が当たり始めたと思っている。(動きを広めたいのだが)小菅の記事は山梨県内に報道されるが、伝えたい東京に中々伝わらなかった。そんなとき日本財団が森林診断(山林診断白書作成と森林(民有林)再生プロジェクト)に関心を持ってきて通常100万円のところ、320万のお金をくれた。これが立川の新聞記者の目に止まり、記事にしてくれた。その後、緑のボランティアを募集するとすぐに定員がいっぱいに。これを20回やった。宿泊、旅費で8千円くらいかかるのに、何度も来てくれる人がいる。着実にこのような人達が増えている。その後、JTやホンダなども森づくりに来てくれるようになった。元気がある村にはみんなが来てくれるということ。

源流の資源を使って、村が生きていく道を探っている。まずは水。源流水に10円の基金を乗せて、他の水との差別化を図った。思いの広がり売り上げにつながっている。そして森。村の95%が森林、これを流域で、暮らしの中で使わなくてはと考えた。国土交通省京浜河川工事事務所の改築の時(H18)、腰板を源流のものを使って評判になった。H19には防災センターで使ってもらい、そして今年、「保健所」事業をセールスしている。来年作りましようというところが4校、再来年というところもある。

源流の良さを体験し、知り、広めてもらうにはネットワークが命。

源流の里協議会(全国11市町村のネットワーク)、多摩川流域懇談会などで取り組んできたが、今度は桂川・相模川流域協議会への入会を機に、一層交流が進めばいいなと思っている。

### ●感想

①超多忙な3人のキーパーソンから話が聞けたことは、大変ラッキーなことでした。言い換えれば、いわば源流研究所と小菅村との戦略的なコラボレーションによって、ビジネス展開を成功させている様から学ぶべきことは多かったと思います。

②今回は、内閣府のモデル事業に関するお話はさほどなかったのですが、その基礎となる村起こしの成功の秘訣をお聞きすることができて、大変よかったです。

③参加者(私も含めて)も、村の積極的な姿勢に共感を覚えて、小菅の湯の直売場にて、かなりの額の金額で買い物をしていました。小菅の地産地消への積極性とサービス精神に敬意を表して、良き思い出とともに買い物をしたという印象を持ちました。

④源流研究所とは、形の上での建物をイメージするのではなく、新しい時代を切り開いていくという、人と知恵のネットワークであることを再認識しました。都会の繁栄を支え続けてきた農山村、特に限界集落の域をとっくに超えてしまっている源流の里から、元気の大元が生まれうるという不思議さ、つまりは地域への愛と知恵が地域資源を発掘しうる可能性を参加者全員が再認識させられました。感謝。

## 桂川・相模川流域協議会入会に寄せて

### 小菅村長 降矢英昭



小菅村は、山梨県の北東部、大月市と上野原市の北に接し、奥多摩湖を遡った、多摩川の流域に位置しています。

これまで本村は、清流や森林など本村が有する豊かな自然環境は、流域全体の宝であり、永く保持すべき価値であると考え、源流を守り源流を生かした村づくりに取り組んで参りました。

これらは、主として多摩川の源流としての取り組みでしたが、本村の東南部、鶴峠の分水嶺から南下した長作地区は、桂川・相模川に注ぐ鶴川の流域でもあります。

源流は流域環境の保全の最前線に立っているとの認識を持ち、源流にこだわる村づくりを標榜する本村といたしましては、桂川・相模川流域においても、その一員としての取り組みに参加することが重要と考え、平成21年度から桂川・相模川流域協議会に入会させていただくことといたしました。

これまでの多摩川源流域としての様々な取り組みにより蓄積した知見やノウハウ、人のつながりを生かし、今後は桂川・相模川流域の皆様とともに、流域環境の保全を進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、すでに当会の皆様には、昨年12月に、ツアー&ウォッチング事業により本村を訪れていただきました。

その際には、長作地区の国重要文化財である「長作観音堂」、廃校となった小学校を再生し、大学生に源流の自然・文化に関わる営みを学んでもらう「源流大学」、本村の主要観光施設である「小菅の湯」などをご覧いただき、特産物のイワナの刺身や山菜を生かした料理などを召し上がっていただいています。

また、源流の資源を活用し、源流からの情報発信や交流事業の企画運営を行う「多摩源流研究所」、内閣府の地方元気再生事業として実施している、本村の間伐材を学校の保健室の腰板等に利用する「木づかい保健室プロジェクト」、本村製造のミネラルウォーター「多摩源流水」の収益の一部を源流の森の再生基金として活用する取り組みをお話しさせていただきました。

このほかにも、自然が満喫できるハイキングコースや体験観光施設、山の幸、川の幸による料理などが数多くあり、また、ご紹介したい源流を生かした取り組みが沢山あります。

本村には、上野原、大月の各ICから車により1時間ほどで越しいただけます。当会への入会を機に、桂川・相模川流域内の交流を一層活発にして参りたいと考えておりますので、流域の皆様におかれましては、ぜひ本村をお訪ねいただき、源流の魅力を感じていただきますようお願い申し上げます。

## 桂川・相模川流域協議会が表彰されました

第4回「きれいな水と美しい緑を取りもどす全国大会」において、「水環境保全活動・自然環境保全活動等功労者表彰」を桂川・相模川流域協議会が受賞しました。

この賞は、地域における水環境の保全に関する活動等に顕著な功績のあった団体等を表彰するもので、これまでの市民・事業者・行政が協調した10年以上に渉る流域での活動が評価され、優秀賞として表彰されたものです。

授賞式は11月6日に岡山県の「ホテルグランヴィア岡山」で行われました。

当協議会からは、河西・倉橋両代表幹事が出席し、「日本の水をきれいにする会」奥野副会長から賞状と副賞を授与され、その後協議会の概要・活動内容について発表を行いました。

DVDを使用した発表には、来場した多くの観客からも好評でした。



### 授賞式に参加して

今回の表彰は、これまで当協議会に関わってきた皆様の取組みが評価されてのことです。二つの県にまたがり、三者一体となって1998年に発足して以来10年余を経過した中で、これまでを振り返ってみる良い節目となりました。「清く豊かに流れる」桂川・相模川としていくために、協議会として何を担うべきか、真価を問われるのはこれからです。

代表幹事 河西悦子

直前まで発表のDVDの作成に追われ、ぎりぎりのところで二人の確認をするという慌しさのなかで、何とか、当日を切り抜けたという個人的感想ですが、10年の積み重ねを15分という短い時間の中で発表することで、改めて桂川・相模川流域協議会の足跡を振りかえってみることができた一日でした。

代表幹事 倉橋満知子



# 地域協議会だより

## ●さがみはら地域協議会●

さがみはら地域協議会は実動することを中心に活動しています。会議で集まることは年に、総会を含めても2、3回くらいです。ですが活動で顔をあわせることが多く、そこで打ち合わせをしてしまうので、わざわざ集まることが無い状態です。今までは川遊びや里山体験事業などを盛り込んで、会員以外の人を巻き込み、流域協議会の理解を深めてもらうことに努めてきました。体験事業はたいへん好評で、入会者も増えました。流域協議会を理解してもらうには、内容が専門的分野になることが多いので、体験を通して時間をかけることが、最も必要な要素です。そのためにも地域で活動している団体に協力、連携してもらい、財源に余裕がないので、経費負担することが大事です。これらの活動でネットワークが拡がり、活動内容も充実して、桂川・相模川の流域環境の保全や再生に成果が表れはじめます。

平成20年度のさがみはら地域協議会の活動をお見せいたします。今年度は調査事業が中心です。

### ◆カワラノギクの神沢河原再生実験事業協力参加

カワラノギクを守る会、神奈川県河川課、相模原博物館、さがみはら環境情報センター、さがみはら地域協議会が連携して、相模原市の神沢にカワラノギクの実験場を作り、種まき、除草（数回）、打ち合わせをしながら実験状況を把握しました。



### ◆八瀬川多自然川づくりワークショップに参加

相模原市河川課が企画募集に地域協議会会員7名と一般参加者約40名とで、7回のワークショップと自主調査3回に参加し、地域協議会として提案をし、協議の場で意見交換した結果、ワークショップのまとめには、提案を盛り込むことができました。



### ◆環境省里地モニタリング100に参加

環境省の里地モニタリング募集に、鳩川・縄文の谷戸を候補地として応募し、選出されたことで、水環境、鳥、植物、蝶、カエル、ホタルの6項目をこの先5年間継続調査していきます。それぞれの調査時期に応じて調査してきました。



### ◆相模原市「みんなの消費生活展」に展示参加

生ゴミ堆肥と田んぼの生き物調査を主に展示。環境ステップアップの会、サークル環境の生ゴミの堆肥化の方法や、鳩川・縄文の谷戸の会の協力で、竹細工のはし作り、田んぼの生き物の調査でのドジョウや小魚を水槽で見せるなど、来場者の関心が高く、アンケートにも多く評価されました。



# シンボルマークとポスター原画が決定!



平成22年春の第61回全国植樹祭開催に向けて、県では様々な準備を行っています。大会テーマ「森が育む あなたの心 森を育む あなたの手」をイメージしたシンボルマークとポスター原画も次の作品に決定しました。今後は、これらを最大限に活用し、大会開催に向けて機運を盛り上げていきたいと考えています。



## プレ全国植樹祭を開催します!

第61回全国植樹祭を、県民の皆様と一緒に盛り上げていくために、平成21年5月24日(日)にプレ全国植樹祭を開催します。

プレ全国植樹祭では、全国植樹祭の大会会場となる「秦野市」と「南足柄市」の会場等で、全国植樹祭を身近に感じてもらいながら、植樹や記念式典へ参加していただきます。各会場の式典にはご自由にご来場いただけます。魅力的なアトラクションを用意して、皆さまのご来場をお待ちしています。詳しくは、神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会  
(神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室内)  
〒210-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1  
TEL:045-210-4373 FAX:045-210-8855

URL <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sinrin/zensyoku/index.html>

## 桂川・相模川流域協議会入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。  
協議会では、さまざまな活動を通じて、水源環境の保全・再生に努めています。

桂川・相模川流域協議会に興味を持った方はぜひ入会してください。

- ◎個人会員は 年会費 1口 1,000円(1口以上)
- ◎団体会員は 年会費 2口 2,000円以上
- ◎事業者会員は年会費 1口10,000円(1口以上)です。

### 詳しい案内はこちら

振 込 先	郵便振替: 振込口座	00220-5-10259
	名 義	桂川・相模川流域協議会
	銀行振込: 振込口座	三井住友銀行横浜支店
	普通口座	6825559
	名 義	桂川・相模川流域協議会
	代表幹事	河西悦子

## 相模川ふれあい懇談会について

相模川をより良い河川にしていくため、市民団体や学識者、学校関係者などあらゆる人が自由に参加し、流域に住んでいる方々が様々な意見を述べたり、河川管理者と議論して今後の川づくりを考える会として、平成20年12月7日、相模川ふれあい懇談会が設立されました。

第1回のふれあい懇談会では、懇談会の趣旨説明及び相模川の現状について紹介致しました。第2回目以降は、より具体的な相模川の問題に対し、市民と議論できる場を設けたいと考えております。

また、机上の議論だけでなく、実際に相模川を歩きながら市民の意見を聴取するふれあい巡視も順次実施していく予定です。

ふれあい懇談会、ふれあい巡視の開催要項および結果報告は、京浜河川事務所のホームページで随時アップして参りますので、ご覧になって下さい。

国土交通省京浜河川事務所

## 2009年度 桂川・相模川流域協議会 定期総会のお知らせ

- 日時:5月23日(土) 13:00~
- 場所:サン・エールさがみはら  
(相模原市 JR:京王線橋本駅南口下車徒歩10分)
- 内容:横浜国大 佐土原教授による基調講演  
地域協議会交流会  
予算・決算及び事業報告・事業計画の承認

## 編集後記

今回の流域ウォッチングでは、桂川・相模川の一次支流をとりあげました。支流の名前は知っているようで意外と知らないものも多く、自分でも驚きました。皆様のご参考になれば幸いです。(T)



本誌に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せください。

## あじえんだ113 No.22 (2009.3.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会  
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://www.katura-sagami.gr.jp>  
事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原三丁目3-3 TEL 0554-45-7811 FAX0554-45-7807  
神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL 045-210-4127 FAX045-210-8846